

乙巳（きのとみ）

1年の計は元旦にあり、と言いますが、それはその年がまず、どんな年になるかがある程度わかっているなければ、計画して実行に移すことが出来ません。では、今年2025年は一体どのような年になるのでしょうか。

2025年は、干支では乙巳（きのとみ）の年にあたります。この年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高いと言われています。「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味します。この組み合わせは、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しています。さらに、この乙巳の意味するところは、成長しきって停滞した事柄を贅にして一気に変化を起こす姿を示しているそうです。ただし同時にその変化の急激さ故に、足元を見失い踏み外してしまう可能性があるとも示唆しているそうです。

ちなみに、相場格言にも「辰巳（たつみ）天井、午（うま）尻下が、未（ひつじ）辛抱、申酉（さるとり）騒ぐ、戌（いぬ）は笑い、亥（い）固まる、子（ね）は繁栄、丑（うし）はつまずき、寅（とら）千里を走り、卯（うさぎ）は跳ねる」というものがあるそうです。つまり、巳年の相場は俗に上昇相場とされますが、天井という言葉が意味するところは推して知るべしということなのでしょう。

今までの乙巳の年は、戦争の開始や終結、政争、政変の開始や終結、社会変革のきっかけとなった出来事が多く見受けられます。このことから推測すると、2025年の乙巳は、トランプ政権が誕生し、ロシア・ウクライナ戦争が終結し、さらに台湾有事の新たな勃発の可能性が高いと考えられるのではないのでしょうか。皆様はどのように考えられますか？

鎌野



歳を取るとは

歳をとると涙もろくなるというが、それは本当だと最近実感している。テレビドラマや映画を見ていて、たびたび涙が自然に溢れてしまう。これが歳を取ることなことなのだろう。何気ない幸福をみると、特に泣けてしまう。不幸な話では、逆にあまり泣けない。私の人生60年、色々な経験をして、色々な知識を得た結果がこの涙なのだろうと思う。人はいずれ死ぬ。遅かれ早かれ死ぬのは決まりだ。

SF映画でよく人の記憶や知識を後世に残す為に云々という設定がよくあるが、気持ちは分からなくもないが、一人一人の人間の人生は、そんな簡単なものじゃないとも思う。一度きりの自分の人生だから、精一杯あがいて生きて、死ぬまで生きるしかないねと、この頃は思う。

英樹



お健やかに新年をお迎えのことと存じます
新しい年が素晴らしい一年になりますよう
心よりお祈り申し上げます



配り

第 308 便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室
TEL (0550) 87-0048
FAX (0550) 87-1237
〒412-0035 御殿場市中山518番地

南天の赤い実むく鳥ゆらしつつひと粒残す春浅き庭

ねがみともみ



重文の襖絵見ずとも仁和寺に藤井七冠対局の間よ

勝亦 りつ子

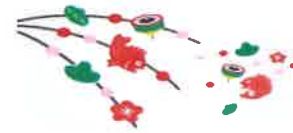


本年もよろしく お願いいたします。

業務でパソコンを使って行うインターネットの公的認証サービスを年に数回行うことがあります。電子入札とか電子申請などです。役所に出向くことなく事務所にいながら手続きができてとても便利です。便利なはずなんです。ところがそのシステムを使用するにあたり、パソコンの設定を指定されたとおりにしないとエラーとなり使うことができません。毎日の業務でパソコンを使用する中でいつのまにかその設定が変更されていたり、あるいはセキュリティの問題などで新たな設定項目が追加されたりします。頻繁に使用していれば問題はないのですが、これが年に一回とかであると使い方を覚えていないことがほとんどです。市町村であったり税務署であったり監督署であったり、それぞれに少しずつ使用法に違いがあり、その設定画面もまちまちで、なんなら設定画面にすらたどり着かなかったりするのです。

先日も税務署の手続きをするために税務署のホームページからいろいろ事務の根上さんと格闘しましたが時間いっぱい翌日以降に持ち越し。これだけ IT だの DX だのいろいろ言われて技術革新だとかされているはずなのに、どうしてもっと簡単にできないのでしょうかね～。パソコン関係の仕事があると若い僕に回ってきていましたが、若いだけで得意という訳でもないのです。そろそろ若手にバトンタッチしたいところ。どうかな？

柳田敏和



大寒



現在、二十四節気の『大寒』：七十二候の「水沢腹堅」（さわみずこおりつめる）1/25・29 日：沢の水が氷り厚く張りつめる頃。1/30・2/3「鶏始乳」（にわとりはじめてとやにつく）：鶏が小屋に入って卵を産み始める時期となります。お正月に食べる『お節料理』ももとはお正月だけでなく季節の節日にあたる 5 つの節に神様に特別なお料理でお供えをしていました。その時にお供えしたお料理をお節句（おせちく）というんだそうです。最近はお重で買い求めることが主流でしょうか？

我が家、お節料理ではありませんが、“羊羹”を作ります。姑に教わりました。小豆を炊いて、こし、こしあんを作り、棒寒天を使い、砂糖・塩・つや出しの酒を入れて練る。出来上がりは、市販の羊羹よりやわらかく、水羊羹より硬い。分量は目分量。味見をしながら練っていく。寒天を溶かして他の材料を入れ約 2 時間程コンロの前にはりついて練る。こしあんを作ることから始めると一日がかりですかね。小豆をこした後のこしあんの水分量もあるので一概に砂糖何グラムとはいかない。練る時間もだいたい 2 時間位。鍋の中を見ながら味見をしながらとなる。出来上がりのフィニッシュは完璧をもとめない。余白を残すのが私流。絵を描く感覚と一緒に・・・の余白を残す。塩は少々とはいえ冷めると際立つので塩梅が必要。これも感覚。砂糖も途中入れると水っぽくなるので、まだ練るのかと気分が萎えるのを我慢して「おいしくなあれ」と練る。まるで修行だな、と毎年思う。でも美味しいので作ろう。と決めている。だがしかし、余白を残すといっても味見を何回かするので出来上がる頃には、もういらないな・・・と手が出なくなるのはどんなものか。2025 始動しました。

ねがみ

今年は



1 月も半ばを過ぎそろそろ花粉症が気になってきました。スギの雄花は、初冬の冷え込みが厳しいと休眠打破が順調に進み、休眠から目覚めた後は、暖かいほど開花が早くなる傾向があります。今シーズンの冬は 12 月から 1 月半ばにかけて寒気の影響を受ける日が多く、この先 2 月にかけての気温は平年並みか高く推移する見通し。3 月の気温は平年より高いようです。スギの雄花の休眠打破はおおむね順調に進み、休眠から目覚めた後は、寒さの和らぐ日が現れると順調に開花すると予想されています。スギ花粉が飛散開始する時期は、多くの所で例年並みですが、東海と東北は例年並みか早いようです。東海では早くも 1 月上旬に飛散開始が確認された所があります。1 月中の飛散量は少ないですが、2 月には本格的な飛散となるらしいです。日本気象協会の花散飛散予測は例年（前シーズン）の 150% 以上 200% 未満。恐ろしい。昨年末に軽く風邪をひいて以来、喘息のような咳と喉の不調が続いていますが早くも花粉症なのか…。杉も檜もあるので今年も長い付き合いになりそう。早くも憂鬱。

祥子